

ホクリクムヨウラン

Lecanorchis hokurikuensis Masam.

ラン科

石川県カテゴリー

絶滅危惧Ⅱ類

国カテゴリー

該当なし

選定理由

県下の自然度の高い照葉樹林、特にスタジイ林にしばしば見られる植物であるが、照葉樹林の消失とともに減少する傾向にある。(現況:RO)

形態

日本のムヨウラン属植物数種のうち、本県には本種のみが分布する。腐生植物で緑葉はなく、小型の鞘状鱗片がある。花は紫色で、下向きに咲き、唇弁は分裂せず内面は有毛、子房は約4cm、表面に微細な突起がある。茎は針金状で高さ20~40cm、数花を総状に着ける。根茎は深く土中にあり、よく分岐する。

国内分布

日本海側の東北、北陸をはじめ、中国地方(島根)、四国(徳島)、九州(佐賀)などから報告がある。静岡県にも分布。

県内分布

奥能登、口能登区、南加賀区。

生態など

地生の多年生草本。腐生植物で開花期は6~7月。

生育環境

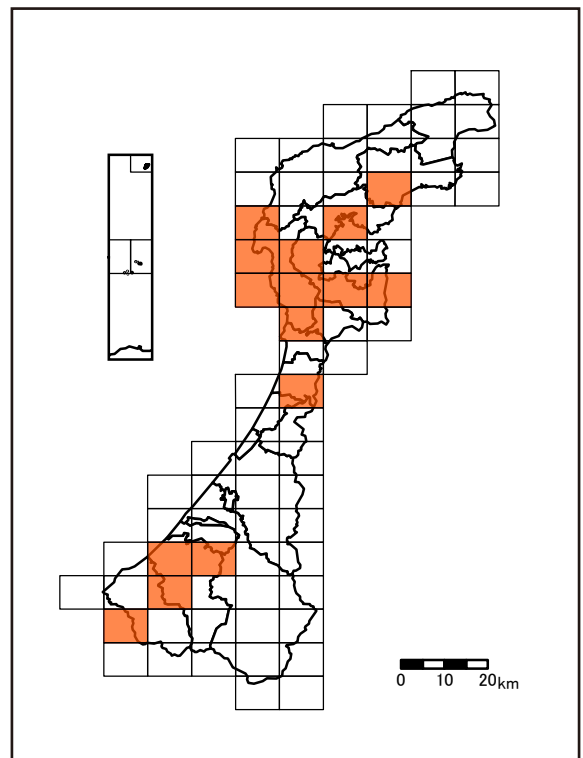
スタジイ林、ウラジロガン林など照葉樹林の林床。

危険要因

森林伐採、土地造成、道路工事、踏みつけ、自然遷移、産地局限、その他、不明。



本多郁夫・2008年6月10日・金沢市



県内の分布